

## 北九州市立高等学校の魅力向上事業について

### 1 経緯

- (1) 令和3年1月 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
- (2) 令和3年4月21日 教育文化委員会報告  
「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」  
→ 「普通科」を「地域社会に関する学科」に変更 など

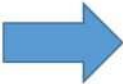
### 2 新学科検討の経過

- (1) 文部科学省  
「令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」採択
- (2) 産・官・学・民から構成される有識者会議の設置・協議（令和4年度～）  
「市高魅力化コンソーシアム」  
「北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会」
- (3) スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの策定・公表

### 3 「普通科」から「未来共創科」へ

- ・「普通科」を「未来共創科」に改称し、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学びを通して、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指す。
- ・総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な表現力・発信力の育成も目指す。

	R4年度の学科		定員
	1組	2組	
普通科	普通科	普通科	80人
	普通科	普通科	
専門学科	情報ビジネス科	情報ビジネス科	120人
	情報ビジネス科	情報ビジネス科	
	情報ビジネス科	情報ビジネス科	



	R6年度からの学科		定員
	1組	2組	
普通科	未来共創科	未来共創科	120人
	未来共創科	未来共創科	
	未来共創科	未来共創科	
専門学科	情報ビジネス科	情報ビジネス科	80人
	情報ビジネス科	情報ビジネス科	

### 4 今後の方向性

- ・情報ビジネス科を未来共創科に再編し、ビジネスの知見・ノウハウ等を未来共創科のカリキュラムに盛り込むとともに、社会の変化を踏まえたより重層的な学びを生徒に提供（令和7年度入学者から）
- ・令和7年度入学者選抜試験から、選抜試験を一般入試及び特色化選抜試験の2方式で実施

# 高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向 (高等学校改革)

## 高等学校改革

平成31年4月 文科省→中央教育審議会に諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」  
※ 諮問事項の一つに「新時代に対応した高等学校教育の在り方」

令和元年12月～令和2年8月 北九州市後期中等教育に関する検討会議（有識者会議）

令和2年8月 上記検討会議から「意見のまとめ」

【北九州市立高等学校】

- ・ 存続について、全体としては肯定的な意見が多かったものの、改革も急務
- ・ 地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実のため、「個別最適化」された学習や「探究活動」の推進、それを支えるための「学びの土壌づくり」、近隣の大学や地域社会との連携などが重要

令和2年11月 中教審「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」から審議まとめ  
「多様な生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある高等学校教育の実現に向けて」

令和3年1月 中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」

第Ⅱ部 各論「3 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について」

(1) 各学科に共通した基本的な考え方

- ① 様々な背景の生徒が在籍するため、生徒の多様な能力・適正、興味・関心等に応じた学びの実現が必要
- ② 高校での教育活動を、高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換
- ③ 社会経済の変化やR4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討が必要
- ④ 在学中の生徒が主権者の一人としての自覚を深める学びが求められており、学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図ることが必要
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された高校の役割や価値を踏まえ、遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組み合わせを検討

# 高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向 (高等学校改革)

(2) 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ① スクール・ミッションの再定義：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ② スクール・ポリシーの策定：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③ 普通科改革：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
  - ・「普通教育を主とする学科」を置く各高等学校が、各設置者の判断により、学際的な学びに重点的に取り組む学科、地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科等を設置可能とする制度的措置
  - ・新たな学科における教育課程においては、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設、国内外の関係機関との連携・協働体制の構築、コーディネーターの配置
- ④ 産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）
- ⑤ 新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進
- ⑥ 高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供

令和3年3月25日 教育委員会会議にて「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」決定

【北九州市立高等学校】

- ◎ 学科構成の転換：現在の普通科を「地域社会に関する学科」へ  
(※報告時の予定ではR5年度設置だったが、準備に時間を要するため、R6年度設置に変更)
- ◎ 「スクール・ポリシー」の策定（R5年度施行）
- ◎ 個別最適化された学習環境の提供（生徒の自主性を重視し、生徒の関心等に応じた学びの導入）
- ◎ 探究的な学習活動の充実

令和3年4月21日 上記方針を北九州市議会に報告



この方針に沿って、市立高校の魅力向上や取組の充実を図っていくことになりました 2

# 北九州市立高等学校の魅力向上推進事業 (R4・5年度の取組)

(令和4年度～ 文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」(普通科改革支援事業)の指定校)



## 令和4年度の取組

- ✓ 学則改正(新学科設置、定員変更)
- ✓ スクール・ミッションの策定
- ✓ コンソーシアム及び運営指導委員会の設置
- ✓ コーディネーターの配置
- ✓ 民間人校長の採用(R4.10～副校長、R5.4～校長)
- ✓ 魅力向上に向けた校内の体制づくり
- ✓ 「北九州市立高等学校の魅力向上プラン」の策定・公表
- ✓ 高校魅力化評価システムの実施(校内の現状分析)
- ✓ ステークホルダーへのアンケート調査(中学生とその保護者、市高生、大学・企業等)

## 令和5年度の取組

- ✓ 学則改正(Web出願が可能に)
- ✓ スクール・ポリシーの策定
- ✓ コミュニケーション重視型の特色化選抜の実施
- ✓ 教職員の柔軟かつ斬新なアイデアを盛り込んだ魅力的な広報活動(PR動画の製作・放映、SNS等の活用)
- ✓ 夜間実施の保護者説明会(初)
- ✓ 北九州市立大学からの長期学生インターンの受入れ
- ✓ 「生徒が生徒を導く」リーダーシップ研修の実施
- ✓ 九州栄養福祉大学及び西日本工業大学との連携協定の締結(食を通じた地域課題の解決、esportsなど)
- ✓ 外部人材による出前授業等
- ✓ 福岡県中小企業家同友会との連携による共育型インターンシップ
- ✓ 大学や中小機構と協働した起業家教育の推進

# 北九州市立高等学校の魅力向上推進事業 (学科再編へ)

スクール・ミッション 市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、  
**「産・官・学・民」と連携・協働しながら、**  
**絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。**

## 未来共創科

生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら  
**共に未来を創造**する学びを通して 「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに  
 総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な**表現力・発信力の育成**も目指す学科

## 学科構成

	R4年度の学科		定員
普通科	1組	普通科	80人
	2組	普通科	
専門学科	1組	情報ビジネス科	120人
	2組	情報ビジネス科	
	3組	情報ビジネス科	



	R6年度からの学科		定員
普通科	1組	未来共創科	120人
	2組	未来共創科	
	3組	未来共創科	
専門学科	1組	情報ビジネス科	80人
	2組	情報ビジネス科	

## 進行イメージ

R5年度			
	1年生	2年生	3年生
1組	普通科	普通科	普通科
2組	普通科	普通科	普通科
3組	情ビ科	情ビ科	情ビ科
4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科
5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科



R6年度			
	1年生	2年生	3年生
1組	未来共創科	普通科	普通科
2組	未来共創科	普通科	普通科
3組	未来共創科	情ビ科	情ビ科
4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科
5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科



# 北九州市立高等学校の魅力向上推進事業 (広報等の工夫)

令和6年度入学者の募集ポスター

北九州市立高等学校  
未来共創科  
2024年 西暦  
普通科改造計画始動。一步前に踏み出す  
120名 情報ビジネス科 80名  
120名なりたい自分に出会う場所

夜間実施の保護者向け説明会 (初)



プロモーション・ビデオの製作



# 北九州市立高等学校のスクール・ポリシー (両科共通項目)

## ◆グラデュエーション・ポリシー (GP) 「このような力を育成します。」

- 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる力
- 疑問を持ち、考え抜くことができる力
- 多様な人々とともに、目標に向けて協力できる力
- 社会の変化にしなやかに対応できる力

## ◆カリキュラム・ポリシー (CP) 「このような学びを展開します。」

- 産・官・学・民などの多様な人々と共に探究的な学びの充実を図ります。
- ICT を様々な場面で活用した学びの充実を図ります。
- 各教科・科目において、課題解決型の学びの充実を図ります。
- 社会の変化に対応し、活躍している人との交流を図ります。
- 地域の活性化に向けて、異学年・異学科でチームを構成し、チームで探究するプロジェクト型の実践的な学びの充実を図ります。

## ◆アドミッション・ポリシー (AP) 「このような生徒を受け入れます (求めます) 。」

- 何事にも粘り強く取り組みたい生徒
- 現状に満足せず、向上したい生徒
- 他者と協力し、課題解決に取り組みたい生徒
- 探究的な学びに深く取り組みたい生徒

# 北九州市立高等学校の入試改革 (特色化選抜の見直し)

令和5年度の特色化選抜 評定値（普通科32、情ビ科30）と面接（志望動機など）



評定値や偏差値（入学できるかどうか）で選ばれる市高から  
スクール・ポリシーを踏まえて「この学校でぜひ学びたい！」と  
求められる市高へ

## 令和6年度の特色化選抜

### ● 評定重視型選抜

- ・ 調査書の3年次の評定合計が32以上かつ「観点1」の評価が十分であると認められる者
- ・ 1グループ5名程度でグループ面接（志望理由等が市高のアドミッション・ポリシーに合致しているかなどを問う内容）

### ● コミュニケーション重視型選抜

- ・ 調査書の3年次の評定合計が27以上かつ「観点1・2」の評価が十分であると認められる者
- ・ 1グループ5名程度でグループワークに取り組み、課題解決の過程を評価。グループ面接も実施

観点1	「他者の意見や他者から求められている事」及び「与えられた課題」に対して、自分の考えを表現することができる。
観点2	他者と協働し、主体的に課題解決に取り組むことができる。



# 各学科の志願状況

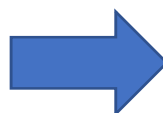


# 入学者選抜試験の志願状況

(R5・6年度比較)

## ① 特色化選抜

	R5年度入学者選抜		
	予定人数	志願者数	倍率
普通科	36人	26人	0.72
情ビ科	54人	39人	0.72
合計	90人	65人	0.72



	R6年度入学者選抜		
	予定人数	志願者数	倍率
<b>未来共創科</b>	60人	139人	<b>2.32</b>
評定重視	(51人)	(85人)	<b>(1.67)</b>
コミュ重視	(9人)	(54人)	<b>(6.00)</b>
情ビ科	40人	27人	<b>0.68</b>
評定重視	(34人)	(20人)	<b>(0.59)</b>
コミュ重視	(6人)	(7人)	(1.17)
合計	100人	166人	1.66

## ② 推薦

普通科	32人	33人	1.03
情ビ科	48人	69人	1.44
合計	80人	102人	1.28



<b>未来共創科</b>	54人	76人	<b>1.41</b>
情ビ科	36人	36人	<b>1.00</b>
合計	90人	112人	1.24

## ③ 一般

普通科	23人	33人	1.43
情ビ科	13人	26人	2.00
合計	36人	59人	1.64



<b>未来共創科</b>	15人	40人*	<b>2.67</b>
情ビ科	19人	27人**	<b>1.42</b>
合計	34人	67人	1.97

\*40人中31人は、①もしくは②で未来共創科を志願

\*\*27人中19人は、①もしくは②で未来共創科を志願  
(つまり、**情ビ科(一般入試)の実質的な倍率は0.42**)

# 社会の変化に伴う学びの概念の変化

令和3年1月 中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」より

産業構造や社会システムが「非連続的」かつ急激に変化している現代では、実社会で求められる能力も日々刻々と変化している。

大学入試等においても、探究的な活動を通じて身に付く能力・資質等を評価する取組が求められている。

これまで 知識の習得を重視



これから 知識の習得だけでなく、**知識を使う能力**（思考力やコミュニケーション力など）の育成に重点を置いた、**主体的・対話的な深い学び**へ

令和4年5月 経済産業省「未来人材ビジョン」より

これからの時代に必要な能力・スキルは、基礎能力や高度な専門知識だけではなく、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢

- ゼロからイチを生み出す能力
- グローバルな社会課題を解決する意欲
- 夢中を手放さず一つのことを掘り下げる姿勢
- 多様性を受容し他者と協働する能力

◆スクール・ミッション  
「このような学校にします。」

◆グラデュエーション・ポリシー (GP)  
「このような力を育成します。」

## 絶えず変化する未来の社会や 世界をけん引する若者の育成

- ・ 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
- ・ 疑問を持ち、考え抜くことができる力
- ・ 多様な人々とともに、目標に向けて協力できる力
- ・ 社会の変化にしなやかに対応できる力

分野を問わず  
汎用性の高い  
データサイエン  
スの知識や活用  
方法などについ  
て広く知るため  
の学び

グローバルな視点  
で物事を捉え、  
異文化や多様な価  
値観への理解を深  
めるとともに、主  
体性をもって他者  
と協働して学ぶ姿  
勢の育成

新しいことへの  
挑戦や、イノベー  
ションを起こす力  
を養うためのアン  
トプレナー  
シップなどの学び

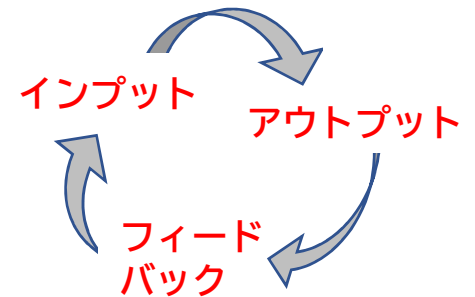
## 探究学習の時間の十分な確保

情報機器やアプリ  
などの進化に伴う  
社会構造の変化、  
AIの普及・発展  
などに伴うデータ  
活用時代への対応

- 情報技術やICT  
の進展などに伴う  
グローバル化への  
対応
- 多様性社会

産業構造の転換、  
技術革新、少子高  
齢化など、著しい  
社会の変化への対  
応（既成概念から  
の脱却）

学びの質はもとより、  
時間を確保し、多様な  
探究の学びのサイク  
ルを経験する必要あり。



すべての市高生に必要な「生きる力」

# 今後の学科再編、入学者選抜試験の方向性

## 学びの概念の変化等を踏まえた学科再編

情報ビジネス科を未来共創科に再編し、学校全体として以下の資質・能力の育成に重点を置く。（R7年度入学者から）



Society5.0で活躍する「非認知能力」を備えた人材の育成  
社会課題の解決をイノベーションにつなげていく人材の育成  
グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材づくり  
ICT等の活用による学び・交流機会の向上、DX人材の育成等を推進  
時代に対応した情報活用能力の育成  
アントレプレナーシップ教育、金融経済教育の充実（ビジネス等に係る学習）

## 福岡県立高等学校の入学者選抜試験日程（令和7年度入学者選抜試験から）

特色化選抜と推薦入学者選抜に関しては、これまで別日での実施となっていたが、令和7年度入試から同一の日程での実施へと変更



北九州市立高等学校では、**一般入試**と**特色化選抜**を実施する。



# 北九州市立高等学校「未来共創科」イメージ図

## ●スクール・ミッション

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、『産・官・学・民』と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

